

平成22年5月21日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19320100

研究課題名（和文） オーラルヒストリーによる現代映画制作の研究

研究課題名（英文） Study of modern film production by means of oral history

研究代表者

深尾 淳一（FUKAO JUNICHI）

映画専門大学院大学・映画プロデュース研究科・講師

研究者番号：70440427

研究代表者の専門分野：南アジア地域研究、南インド考古学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：プロデュース、比較文化、芸術諸学、映画学、オーラルヒストリー、インタビュー、日本：ロシア：インド、プロデューサー

1. 研究計画の概要

本研究は映画プロデューサーに対するオーラルヒストリーの実施と分析を通じて、「コンテンツをプロデュースする」という過程とその実態を明確化することを目的とする。同時に、研究成果を論文として発表するだけでなく、国際的に活躍できるプロデューサー育成のための教材としての活用を視野に入れた映像作品の作成もその目的とする。

具体的には、国内外のプロデューサーを主な対象とした映像記録によるオーラルヒストリーを実施し、インタビュー内容の言語分析、文献資料との対照により、映画に関する諸概念の展開過程を明確化することをめざす。さらに、本研究内容を、研究資料・教材として使用可能な形式により公表するため、DVDとして作品化する。

「コンテンツをプロデュースする」という行為内容と、それに従事するプロデューサーの職務内容の変遷を明らかにすることにより、「プロデューサーの要件」を抽出するための準備作業として、本研究は、いわば「プロデューサー学」の確立を試みるものである。

2. 研究の進捗状況

(1) 初年度は、オーラルヒストリー研究のためのインタビュー調査に必要な機材として、業務用高画質デジタルビデオカメラや画像編集設備を購入し、研究目的にかなった機材であるかを検証した。また、『興行年鑑』、Dodona Research 社調査文献などを入手し、各国における映画産業の基礎的データを収集した。さらに、KUZUI

ENTERPRISES 代表取締役社長、葛井克亮氏に対してインタビューを行なった。

(2) 2年目には、インドとロシアを訪れ、現地の映画関係者へのインタビュー調査を行なった。インドでは、ヒンディー語映画プロデューサー、リテーシュニシワナーニー氏とペヘラージュニハラーニー氏、ホイッスリングウッズ国際映画学院幹部、ラヴィングプタ氏、タミル語映画大手制作会社 AVM プロダクションズ最高責任者、バーブー氏、および、同社幹部ヴィシュワナーダン氏、映画監督 S.P.ムットゥラーマン氏、タミル語映画制作会社社長ラームクマール＝ガネーシャン氏、タミル語映画配給会社社長 L.スレーシュ氏にインタビューを行ない、ロシアでは、ピグマリオン＝プロダクションズ総合プロデューサー、セルゲイ＝チリヤンツ氏、STV 映画社プロデューサー、セルゲイ＝セリヤノフ氏、プロフィット映画社社長、イーゴリ＝トルストゥーノフ氏にインタビューを行なった。また、日本の映画産業・市場の動態把握のため、『社会生活基本調査報告』などの官公庁統計資料や NHK、電通などの統計資料を収集した。

(3) 3年目の研究活動としては、前年までにインド、ロシアで行なったインタビュー調査の映像を編集し、できる限り日本語字幕を施して DVD としてまとめあげた。また、昨年度までに収集した各種の統計資料を活用し、国内映画産業の実態分析を進めた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

日印露のインタビューが出揃っただけでなく、研究代表者ならびに研究分担者による個別の研究・活動を通じて、話法の分析手法をめぐる考察・研究が深化した。

また、収集された各種調査・白書のデータそのものの概要把握ができあがりつつある。

4. 今後の研究の推進方策

(1) これまで実施した日本・ロシア・インドでの聞き取り調査について、話法(発話・動作)・内容に関する横断的な比較検討を行い、共通点と相違点を抽出することにより、1980年代以降の映画製作における問題点を検討する。

(2) 聞き取り調査の内容と、収集した各種調査・白書のデータとの照合を行い、文献調査と聞き取り調査両方をふまえた有機的な考察を行う。

(2) 前2項をふまえ、映像と文字情報の組み合わせ方や内容の構成方法、技術的課題のクリアなど、オーラルヒストリーの教材化に向けた検討を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

① 深尾淳一、「映画を「フィールドワーク」する?」、『Field+』、第4巻、2010年出版予定、査読無し

② 平山勉、「満鉄の増資と株主の変動：1933年増資の払込期間を中心として」、『歴史と経済』、202号、1～17頁、2009年、査読有り

③ 平山勉、「満鉄調査における志向と制約：株式会社制度の観点から」、『環東アジア研究センター年報』、4号、89～101頁、2009年、査読無し

[学会発表] (計2件)

① 平山勉、「経理統制下の株式市場における企業競争—南満州鉄道の1940年増資を事例として—」、日本植民地研究会第17回全国研究大会、2009年7月5日、立教大学

② 平山勉、「株式市場の拡大と株券譲渡の「正当性」—満鉄株主訴訟(1934年)を事例として—」、慶應義塾経済学会・社会史コロキウム、2009年11月5日、慶應義塾大学

[図書] (計3件)

① 加藤厚子 (小風秀雅編)、放送大学教育振興会、『日本近現代史(’09)』、2009年、173～187頁

② 平山勉 (松村高夫・柳沢遊・江田憲治編)、青木書店、『満鉄の調査と研究 その「神話」と実態』、2008年、26～120頁

③ 西周成、パンドラ・太秦、『チェチェンへアレクサンドラの旅』、2008年、11頁

[その他] (計1件)

西周成、「ロシアの映画政策 —プロデューサーによるその評価と日本との比較」、http://www.youtube.com/watch?v=VCQ_-RmFuY、2009年11月13日